



平成19年度 秋芳・美東地域 中高一貫教育の取組



平成20年3月

美祢市立美東中学校
美祢市立秋芳南中学校
美祢市立秋芳北中学校
山口県立美祢高等学校

目 次

はじめに

地域の概要	1		
1 地域・学校の特徴			
2 平成19年度の実施概要			
確かな学力の定着をめざす学習	4		
1 概要（交流授業、基礎学力診断テスト等について）			
2 交流授業における教科の実施			
（1）英語	（2）数学	（3）国語	
（4）社会	（5）理科	（6）保健体育	（7）芸術（音楽）
（8）芸術（美術）	（9）家庭	（10）養護	
3 美祿郡中学校教育研究会との連携			
4 基礎学力診断テスト			
（1）実施概要			
（2）教科別の状況（英語、数学、国語）			
「ふるさと・秋吉台」をテーマとする学習	27		
1 概要（総学、秋吉台学、火道切り等について）			
2 総合的な学習の時間、秋吉台学について			
3 火道切り			
多様な集団とのふれあい学習	34		
1 概要（郡中文化祭、キャリア教育等について）			
2 生徒間交流（郡中文化祭等）			
3 キャリア教育の推進			
中高一貫教育推進のための基盤作り	39		
1 概要			
2 ブリッジミーティング			
（1）活動状況			
（2）活動の成果			
3 各種委員会			
（1）研究小委員会			
（2）教科別委員会			
4 連携4校合同研修会			
今後の課題と展望	43		

おわりに

はじめに

秋芳・美東地域における連携型中高一貫教育は、平成15年度に美東町立美東中学校、秋芳町立秋芳南中学校、秋芳町立秋芳北中学校及び県立美祢高等学校の間で、「秋吉台をとりまく豊かな自然の中で地域とともに、一人ひとりを大切にする学校づくり」をコンセプトとして開始した。

本地域では、「確かな学力の定着をめざす学習」、「ふるさと・秋吉台をテーマとする学習」、「多様な集団とのふれあい学習」という3つの学習テーマを柱として、これまで5年間にわたり具体的な活動を進めてきた。

振り返ると、本地域では、平成11・12年度の2か年にわたり、県教育委員会が県内3地域で実施した中高連携教育のモデル事業の指定地域として、中高の教員がそれぞれ相互に乗り入れ、チーム・ティーチングを中心とした教科指導を行ったり学校行事において生徒相互の交流を図るなど、地域の実情に即した実践的な活動の研究に取り組んでいた。

その後、平成13・14年度には、文部科学省から「中高一貫教育実践研究事業」における中高一貫教育推進校の委嘱を受け、本地域におけるそれまでの取組の成果を踏まえた中高一貫教育のあり方について関係者による協議を重ねるとともに、中高一貫教育実施に向けた具体的な研究を行った。

平成15年度からは、連携型中高一貫教育を本格的に開始するとともに文部科学省から「中高一貫教育開発指定校事業」の委嘱を受け、さらに、平成16・17年度には、「中高一貫教育改善充実研究事業」の委嘱を受け、具体的な教育内容に関する研究を続けてきた。

平成18年度以降は、文部科学省や県教委等の研究指定は受けていないが、これまでの実践における課題等も踏まえ、高校の教員が中学校で行う授業の形態をチーム・ティーチングから単独授業に変更するなど新たな試みも取り組み続けてきた。

今後、地域の子どもたちの立場に立った新たな取組を検討するためにも、平成19年度の活動内容をあらためて整理し、「まとめ」を作成することとした。

I 地域の概要

1 地域・学校の特徴

(1) 地域の特徴

秋芳・美東地域の連携各校（県立美祢高等学校、秋芳町立秋芳南中学校、秋芳町立秋芳北中学校、並びに美東町立美東中学校）は、いずれも山口県西北部にある秋吉台の麓に位置している。

秋芳町は、人口約5800人の農林業と観光の町であり、中央部を北から南へ流れる厚東川の本支流沿いに開ける平野部が耕地の主体となっている。秋吉台と秋芳洞は重要な観光資源として町政を支えており、2005年11月にラムサール条約湿地として地下水系が登録された。町内には秋芳町立秋芳南中学校、秋芳町立秋芳北中学校、並びに県立美祢高等学校が所在している。

一方、美東町は秋吉台を挟んで秋芳町と隣接する人口約6000人の町で、「奈良の大仏さまのふるさと」がキャッチフレーズである。これは、町内の長登（ながのぼり）銅山から産出された銅が奈良の大仏の原料であったことに由来し、長登は「奈良登り」が訛ったものといわれる。秋芳町同様、観光と農林業が中心産業であり、近年は工業や商業の振興にも力を入れている。町内に美東町立美東中学校が所在する。そして、平成20年3月21日には両町は美祢市と合併、新「美祢市」が誕生し、3中学校はそれぞれ美東町立、秋芳町立から美祢市立になった。



図表1（平成19年4月現在）

(2) 学校の状況

美祢郡内には10の小学校と3つの中学校があるが、美祢高等学校は郡内唯一の高校である。美祢高等学校は、平成19年度は普通科5学級で、全校生徒122名のうち8割以上が連携3中学校からの入学者であり、卒業生は大学・短大、専修学校、就職等幅の広い進路を選択している。

平成15年度から「秋吉台をとりまく豊かな自然の中で地域とともに、一人ひとりを大切にする学校づくり」をコンセプトとした、連携型中高一貫教育に取り組んでいる。

(3) 中高一貫教育

秋芳・美東地域においては、平成12年度までの中高連携教育（山口県教委の指定）の成果を踏まえ、平成13年度からは新たに郡内4校が中高一貫教育推進校として実践的な研究に取り組んできた。

平成15年度には文部科学省から「中高一貫教育研究開発校」の指定を受け、これまでの取組に基づき本格的に中高一貫教育を開始し、研究を推進した。

【秋芳・美東地域中高一貫教育】

1 概要

- (1) 実施形態：連携型中高一貫教育
- (2) 実施校：美東町立美東中学校、秋芳町立秋芳南中学校、秋芳町立秋芳北中学校
山口県立美祢高等学校
- (3) 設置年度：平成15年4月

2 コンセプト

秋吉台をとりまく豊かな自然の中で
地域とともに、一人ひとりを大切にする学校づくり



図表2

2 平成19年度の取組概要

平成19年度の中高一貫教育に関する取組については、4校合同の研修会及びブリッジミーティング（後述）において、年度当初に作成した計画表に沿って進めた。

平成19年度 秋芳・美東地域中高一貫教育の主な取組

時期		協議・研修会等	主な交流行事	授業等
4月	6	第1回ブリッジミーティング		〔中 高〕 国語科連携授業（4/25）
5月	2 15 28	第2回ブリッジミーティング 連携4校合同研修会	中高一貫教育説明（美東中）	
6月	13 23 25 28	生徒指導部会（美祢高） 第3回ブリッジミーティング	美祢高校文化祭（中学生作品展） 中高一貫教育説明（秋芳北）	
7月	18 19		美祢高校オープンスクール 中高一貫教育説明（秋芳南）	〔高 中〕 社会科連携授業（7/5） 数学科連携授業（7/5・9・12） 国語科連携授業（7/6・9） 体育科連携授業（7/12） 〔中 高〕 英語科連携授業（7/12）
8月	24 28	連携4校合同研修会	連携中学校における卒業生 と語る会（8/1秋芳南 8/9美 東 8/21秋芳北） Interactive Summer English Session	
9月	29		高校PTA研修会 （中学生保護者参加）	〔中 高〕 数学科授業参観（9/25） 〔高 中〕 英語科連携授業（9/27）
10月	4	第4回ブリッジミーティング	連携中学校における進路講 話（10/12美東 10/23秋芳北）	〔高 中〕 英語科連携授業（10/4・11） 家庭科連携授業（10/2・22） 中教研社会科部会（10/12）
11月	7 15 19 27	第5回ブリッジミーティング	美祢郡中学校文化祭 火道切り作業 進路説明会（美東、秋芳南）	〔高 中〕 中教研数学部会（11/5） 中教研美術部会（11/22）
12月	6 26 27	進路指導部会（美東中） 第6回ブリッジミーティング （本年度のまとめ、次年度の方針）	美祢高等学校保健委員会 生徒会リーダー研修会	〔高 中〕 英語科連携授業（12/12・17） 国語科連携授業（12/7・11・ 20） 数学科連携授業（12/17・18） 中教研音楽部会（12/17）
1月				
2月	19	第7回ブリッジミーティング		
3月	18 23	第8回ブリッジミーティング	プラスフェスタ in あきよ し	

図表3

Ⅱ 確かな学力の定着をめざす学習

1 概要（交流授業、基礎学力診断テスト等について）

（１）６年間を見通した特色ある教育課程の編成

中学校、高等学校の６年間を見通した指導計画を編成し、中高の教員が協力して授業を展開することとした。このため、６年間で３つの時期に分けて、

- ア 前期：中学校１・２年……………基礎・基本の定着期
- イ 中期：中学校３年・高校１年……………基礎・基本の充実期
- ウ 後期：高校２・３年……………基礎・基本の発展期

とし、各時期のねらいに即した指導を行うことをめざしている。とりわけ、中学校３年と高校１年の円滑な接続を重視して指導の充実を図っている。

基礎的・基本的学習を重視し、確かな学力の定着をめざすことを大きな柱の一つとしていることから、連携型中高一貫教育校としての指導の一貫性を図るための工夫を行った。中学校では、３校が共通して学習を進めていく教育課程を設けるとともに、高校では、中学校の共通した指導を継続して基礎・基本の充実を図り、さらに深化・発展させていくため、少人数指導等によるきめ細かな授業をめざしている。

中学校では、必修教科や選択教科を中心に中高教員の相互交流授業を積極的に展開し、基礎学力の定着と充実を図っている。特に、国語科・数学科・英語科では、３年の授業を中心に計画的に授業を実施している。また、他教科においても授業相互交流を実施している。

高校では、第１学年の授業で、「国語総合」を５単位、「数学Ａ」を３単位、「英語」を５単位と、それぞれ標準単位を上回る単位数で実施し、基礎・基本の一層の充実を図っている。また、その他の教科においても適宜、中高間の教員相互の連携による授業を実施している。なお、数学については、習熟度別少人数編成授業も導入している。

（２）中高一貫教育の特色を生かした指導方法の工夫・改善

中学校においては、生徒一人ひとりの能力や適性に応じたきめ細かな指導を行うため、国語科・数学科・英語科を中心に、主に第３学年の授業で高校教員との授業を実施している。

特に、これらの教科においては、授業交流の推進や基礎学力診断の検討のために、中高４校が共通の時間を週時程に組み込むことにより、定期的に「教科会議」を開催し、担当者間で協議・検討を重ねている。

2 交流授業における教科の取組

(1) 英語

ア 研究の概要

(ア) 具体的な取組内容

- a 高校教員による中学校での単独授業
美祢高校の英語科教員3人が独自の投げ込み教材を使い、各中学校で一度ずつ授業を行う。
- b 中学校教員による高校での授業
聞く、話す技能を中心に、知識の幅を広げるような海外の話などを盛り込み、中学校教員とALTによるチームティーチング(以下TT)を行う。
- c 夏休みのALTとの交流セミナー
- d 行事での交流活動

(イ) 実施状況

- a 高校教員による中学校での単独授業
美祢高校英語科教員3人が、2学期に語彙、会話表現、英作文の3分野でそれぞれ3中学校を訪問し、単独授業を行った。
- b 中学校教員による高校での授業
1学期末に、秋芳北中学校教員と秋芳町ALTが、美祢高校で「慣用表現を使ったコミュニケーション活動」をテーマにTTを実施した。
- c 夏休みのALTとの交流セミナー



8 / 28 (火) 13 : 00 ~ 15 : 30、秋吉公民館にてALT 3名と連携四校の生徒の交流会「イングリッシュ サマーセミナー」を実施した。

秋芳町のALT Mr. Casey Luke Hill と美東町のALT Mr. Christopher J. Mack 及び、週1回山口中央高校から美祢高校に派遣されているALT Ms. Flora Lau と連携四校から生徒17名、教員6名が参加した。

d 行事での交流活動

11 / 7 (水)、秋吉台国際芸術村で開かれた郡中文化祭の「英語発表」では、各中学校から1名、美祢高校から1名の生徒が日頃の成果を披露した。

イ 研修の成果

(ア) 高校教員による中学校での単独授業について

生徒は普段とは異なるアプローチによる3者3様の個性にあふれた授業を受けた。視聴覚教材を利用して楽しく学習したり、英作文のコツを学んだり、1つの会話表現が様々な場面で使用できることを知るなど、刺激を受けた生徒も多かった。

生徒の感想

- ・動物を使った表現がおもしろかった。
- ・いろいろな動物の名前を覚えることができ楽しかった。
- ・英語と日本語では音やモノに対する感じ方が違うことがあるんだと改めてわかった。
- ・ゲーム感覚で楽しく学べた。
- ・ただ教科書にそってやるのではなく、1つのことに時間をかけるととてもわかりやすい。
- ・色々な単語を組み合わせながら英文を考え、その英文が完成した時はとてもうれしかった。
- ・英文は主語(S)動詞(V)とその他の組み合わせが基本となっているということ、ゲームなどを通して詳しく知ることができた。
- ・自分たちが考えて発表したのがけっこう楽しかった。
- ・教え方などわかりやすくよかった。ためになる授業だった。
- ・自分で辞書を使って言葉を調べたり、みんなの発想を聞くのがおもしろかった。
- ・英語自体を毛嫌いしていたので、おもしろい授業は新鮮だった。
- ・英語は苦手だけど、わかりやすく楽しかった。楽しくできたことで、もっと英語のことを知りたいと思った。

教員の感想

- ・今年は1学期に実施できず、各中学校とも2学期に3回行ったが、生徒は集中して様々な分野を学ぶことができ、よかった。
- ・中学校の進度を遅らせることを懸念したが、影響はなかった。
- ・3人の授業内容の分野が大きく異なるので、中学生にとっては新鮮で、興味をもって取り組んでいた。
- ・中学生のレベルに合わせて授業を組み立てるのは難しかった。1週間前に授業を参観させてもらったのは参考になった。
- ・学校、クラスによって個性があり、それぞれ興味深い。
- ・全体にゆったりした余裕のある内容、進め方なので、来年以降、中学校教員から生徒の状況についてのアドバイスも得ながら、内容を広げたり深めたりすることも考えられる。

(イ) 中学校教員による高校での授業について

1学期末に、秋芳北中教員と秋芳町ALTが、美祿高校でTTを実施した。「慣用表現を使ったコミュニケーション活動」をテーマに、ビデオを利用したクイズ、離れた場所から騒々しい中でも必要な情報を英語で聴き取るゲームなど、様々な創意工夫を凝らした楽しい授業が行われ、普段は消極的な生徒も自然に一生懸命に声を出していた。エネルギッシュな2人の指導者に生徒は圧倒されながらも楽しんでいた。

(ウ) 「イングリッシュ サマーセミナー」について

会話はすべて英語で行い、英語力と体力が要求されるゲームあり、ALTによる趣向を凝らしたクイズあり、答えると景品がもらえるというお楽しみありと、楽しいひとときを過ごすことができた。ALTとの英語での交流はもちろん、高校生と中学生、異なる中学校の生徒同士の交流の幅も広げることができた。

以下はALT 3名と参加した連携四校の生徒たちの感想である。

Mr. Chris Mack : Today was very good. The games were very fun and I hoped the kids had fun, too. The kids were also very genki about speaking English.

Mr. C. Luke Hill : Today was great! I enjoyed meeting the students and speaking English with them. I'm very excited to be able to teach English to many of the students this year, and to teach them about my culture.

Ms. Flora Lau : I really enjoyed my time today. The students were all very cheerful and fun to be with. I really hope that the students will continue speaking English outside of the classroom.

生徒の感想

- ・4校が一緒になって交流したので新鮮だった。ALTの先生方はとても優しく親しみやすかった。
- ・自分は英語があまり好きではないので、最初はこのセミナーに行くのは嫌だったけど実際来てみるととても楽しかった。
- ・新しい先生も含め3人のALTの先生方とたくさん話すことができたし、ゲームなどいろいろな活動が用意しており、今日は思った以上に楽しめた。今日は参加してよかった。
- ・景品をもらえるとは思わなかった。英語は苦手だが、なんとか通じて交流できたのがうれしかった。いろいろなゲームをしてとても楽しかった。

(I) 行事での交流活動

高校生には、母校の中学生の前での英語発表は少し誇らしく、かつ日頃の成果を発表する良い機会であり、中学生にも高校生の英語や発想に触れる良い機会となった。

英語を聴きながら内容を理解することが理想ではあるが、中学生の理解を補助するために、発表原稿の裏に日本語での要旨を印刷して配布し、司会者からも簡単に日本語で紹介してもらった。

ウ 今後の課題と展望(まとめ)

高校教員による中学校での単独授業は2年目だが、それぞれに個性的で中学生に好評であった。これからも、題材、内容、レベル等、中学校教員のアドバイスを得ながら、連携教育の核としてよりよいものに発展させていきたい。

中学校教員による高校での授業も楽しく刺激的なものだった。ALTとのTTであれ単独授業であれ、年に1度は続けていきたい。

3回目を迎えた「イングリッシュ サマーセミナー」は今年も好評であった。8月からの新規ALTが2名いたが、7月までには中高の英語教員と前任及び継続のALTとの打合せ会議をもち、役割分担を明確にしたり、前年の反省を活かしたりして、企画の改善を図ることができた。平成20年3月の美祢市との合併を受けて、四校連携の活動も様々に変容せざるをえないと予想されるが、英語科としては、生徒のコミュニケーション能力向上のために、このセミナーを継続させていきたいと考えている。

ア 中高連携教科会議

昨年度までは、週1回程度(月曜日)、中高連携教科会議を実施できていたが、今年度はそれが困難になり、会議の実施ごとに調整が必要であった。会議では、授業交流の在り方、基礎学力診断テストの準備・検討、教育内容や生徒の状況についての情報交換等を行った。中高6年間の教育課程を連続したものと捉え、指導方法や用語の扱い方などの細かな違いを継続的にお互いが確認できる場として、大きな意味を持っている。

イ 授業交流

(ア) 中学校での授業

今年度は1、2学期に1回ずつ高校教員が中学校へ出向き、中学3年生を対象に下記の授業を行った。

[1学期] 平成19年7月5,9,12日実施

「平方根と実数」

身近なところに平方根が隠れていることを理解させる。さらに、既習事項から有理数・無理数を学び、高校数学への流れを意識させる。

[2学期] 平成19年12月17,18日実施

「高さを計算しよう」

実際に距離や角度を測定し、三角形の相似を利用して建物などの高さを計算させる。さらに正接の考え方を紹介し、数学の有用性を知らせる。

中学校の授業進度を考慮しつつ、高校数学への流れを意識した教材を検討・準備し、高校教員主導で実施した。高校の専門性を生かした深みのある授業を行い、数学に対する興味・関心を高めることを第一の目的としている。

授業では生徒が意欲的に活動し、実施後のアンケートは、



運動場から塔までの角度を測る生徒 ↑

[問1] 授業内容は分かりやすかったですか。

1学期:よく分かった…30%, だいたい分かった…38%

2学期:よく分かった…18%, だいたい分かった…44%

[問2] 授業は楽しく受けられましたか。

1学期:とても楽しかった…27%, まあまあ楽しかった…35%

2学期:とても楽しかった…15%, まあまあ楽しかった…45%

となり、概ね好評であった。しかし、中学校の範囲を超えた内容も含んでおり、今後引き続き中高の教員で教材について研究していく必要を感じている。

(イ) 高校での授業

高校の授業に中学校教員が参加する交流授業を実施したが、昨年よりも実施回数は確保できなかった。連携中学校からの生徒の状況を中学校教員が把握するとともに、複数教員で生徒の問題演習活動にきめ細かくあたることを目指している。

また、美祢郡中学校教育研究会の活動の一環として、美東中学校・田中俊光教諭による研究授業が高校1年生を対象に下記の通り実施された。

課題学習「図形の点・辺・面・・・の数」 平成19年11月5日実施

2次元の図形「多角形」か3次元の図形「多面体」のどちらかを自分で選択して課題「図形の点・辺・面・・・の数」に取り組み、点の数・辺の数・面の数に関して成り立つ関係を見つける。

授業後のアンケートでも「よかった」とする生徒が80%を超えており、年に1回の中学校教員による授業であるが、高校生が大きな刺激を受けていることがうかがえる。

ウ BLセミナー

(ア) 中学校での取組

習熟度別や少人数の学習クラスを編成して授業を行ったり、3年生において選択「補充」と選択「発展」の時間を設けたりする等、各校が工夫して、基礎・基本の定着と応用力の伸張に努めた。

(イ) 高校での取組

高校1年の「数学（3単位）」において習熟度別少人数授業を実施した。「標準コース」と「発展コース」に分かれて行ったが、今年度も生徒の学力差が大きく、コース全体として学習に対するモチベーションを保つことが難しかった。年度によって異なる生徒の状況をよく見極め、授業の進め方や設定する課題を工夫することが必要である。習熟度別授業の実施については、再検討をしていきたい。

(3) 国語

ア 概要

今年度から中高の国語科会議は定期ではなく、必要に応じて学期に数回開催する形となった。会議では授業交流、基礎学力診断テストの作成、各学校での国語学習や生徒の状況などの情報交換を行った。授業交流は、1学期に2回、2学期に1回実施した。1学期の1回目は高校で中学校教員と高校教員によるTTを、2回目は各中学校で高校教員が授業を行い、2学期は各中学校で高校教員と複数の中学校教員によるTTを実施した。基礎学力診断テストは、中学1年生から高校2年生までを対象に各学期実施し、基礎学力の定着を図った。

イ 実施授業内容

(ア) 1学期(4月 高校)

口語文法の復習として、動詞の活用について学習した。

前半は一斉授業で、口語動詞の種類について、例を挙げながら活用表を記入し、五種類の識別の仕方を確認した。また、用法や接続の仕方によって六種類の活用形があることを確認した。中学校の学習内容であるため、ここでは中学教諭が担当した。

後半は、学級を4～5名の小グループに分け、班別に課題(口語文中より動詞を抜き出して、活用の種類と活用形を表に記入する作業)に取り組んだ。中高の教師が一人一班を担当し、指導した。

(イ) 1学期(7月 中学校)

各中学校の3年生が宇多喜代子さんの「俳句の可能性」を教科書(光村図書)で学んだ後、「俳句」に親しみ、俳句を鑑賞する基本的な方法を知り言葉の力に触れるということを目指し、高等学校で学習する俳句をいくつか紹介し、実際にその俳句を鑑賞した。多くの人の心を揺さぶる17文字で表現された世界を味わった。

(ウ) 2学期(12月 中学校)

「場に応じた言葉遣いをしよう」という内容で行った。授業前半は、生徒にありがちな言葉遣いの間違いとその訂正をした。後半は、学級を6グループに分け、教師が1名ずつ面接官となり面接練習を行った。前半は美祢高校教諭が担当し、後半はそれに各校の校長と教頭、3中学校の国語科教諭が加わった。



ウ 成果と生徒への還元

(ア) 1学期の交流授業(高校)について

- ・ 高校入学後間もないこの時期に懐かしい中学時代の恩師に会い、和やかな雰囲気の中、生徒達は文法の学習を行うことができ、大変有意義な時間になった。
- ・ 中学時に学習した口語文法を復習し要点を押さえておくことは、これから高校で古典文法を学習するうえでとても重要であり、高校教員にとっても生徒達にとっても確認のできる1時間となった。この後、高校の授業でもう1時間復習し、フレッシューズセミナーでも扱い、古典学習導入とすることができた。

(イ) 1学期の交流授業(中学校)について

- ・ 1時間に4句を扱ったが、俳句について興味・関心がもてたという生徒が多かった。また俳句のおもしろさを実感できた生徒もいた。
- ・ 高校生が学習する俳句を扱う授業であったが、切り込み方(文字表記や音の響きに注目)が生徒にとって興味深いものであったので、新しい発見があったようである。少し高尚な鑑賞の仕方に触れることができたと考える。
- ・ 中学校では、俳句や俳人を絞り込んで授業を展開する機会があまりないので、生徒にとっても新鮮だったのではないだろうか。教員の思いが伝わってきて、おもしろみのある授業となった。

(ウ) 2学期の交流授業について

- ・ 授業前半の活動では、敬語で丁寧に話す姿勢や尊敬・謙譲の表現の違いを生活の場面の中で確かめることができた。
- ・ 面接練習では、初対面に近い相手との受け答えに、緊張感をもって聞いたり話したりする活動ができるとともに、美祢高校教諭との学習を通して、高校進学への意識を高めることができた。
- ・ 面接練習に生徒の相互評価を取り入れることにより、自分の応答について客観的に振り返ることができた。
- ・ 面接に必要な立ち居振る舞い・応答などを、実践的に理解することができた。

エ 今後の課題と展望

(ア) 交流授業について

- ・ 面接に限らず、他のいろいろな場面を想定して正しい言葉遣いの学習を行うことは、外の世界を意識する良い機会となる。書く学習より、話す指導の方が時間を有効に使えることから、継続していきたい。
- ・ 交流授業については生徒の意欲、意識付けに有効なものになってきている。教員にとっても中学生・高校生との触れ合いの中から現状を把握し、今後の学習活動に役立てられる利点があり、続けていきたい。
- ・ 高校での授業はどんな教材を用いて、どんな進め方をするのかなど、中学校との相違を経験することで、高校学習への意欲が喚起され、高校進学に向けて気を引き締めるきっかけとなれば幸いである。
- ・ 授業の内容は「文学」に限らず、中学校ではあまり扱わない分野のものも紹介してい

くと高校の学習への意識づけと発展につながるのではないか。

(イ) 全体として

- ・ 中学高校ともに、国語力、特に基礎な語彙の不足を痛切に感じる現状がある。同様にコミュニケーション能力、スピーチ、ディベート力を養うことも重要である。複数の教員が関われる交流授業を有効な機会にしていけないだろうか。
- ・ 教員の異動があっても、中高の交流が揺るがないように、システム化していくことが必要ではないか。

(ウ) 基礎学力診断テストについて

基礎学力診断テストは、中学1年生から高校2年生までを対象に、各学期実施し、基礎学力の定着を図った。本年度は、中学は昨年同様、漢字・文法・言葉の知識の三分野、50点満点。高校は、現代文法を学習する機会がほとんどないため文法の出題をやめ、新たに文学史を入れて漢字・言葉の知識・文学史の三分野、50点満点とした。

作成については5年間分の出題範囲を決め、毎回各教員で分担する形が定着したので、スムーズに作成できるようになってきた。しかし、実施に当たっては、予習・復習が定着していない生徒が多く、学習への意識付けをどのようにしたらよいか今後の課題である。全体として、教員の異動によって、基礎学力診断テストの実施やデータ処理をはじめ、交流授業等に揺れがないようなシステム作りが望まれる。

(4) 社会

ア 取組の概要

自己の在り方・生き方について自覚を深めることや、民主的・平和的な国家の形成者として必要な公民としての資質を養うことは、価値観が多様化した現代社会において大変重要なことであると思われる。また、中高連携の6年間連続した社会教育の中で、自分たちの生活する地域について深く学習し、そこで得た知識をもとに日本全体ひいては世界を理解し、そこに広がる様々な問題を解決する能力＝「生きる力」を身につけさせることも大切である。

以上のような目的のもと、その資質と能力を養うため中学3校・高校双方の教員の協力のもと、授業交流などを中心に連携に取り組んできた。

イ 取組の成果と生徒への還元

互いの学校間の生徒状況を把握するためにそれぞれの学校で授業参観を行い、同時にどのような点で連携が可能か協議を重ねてきた。その結果、学期に1回程度の連携授業を、TTなどの様々な形態を含め実施してきた。内容的には中学校において「古代長登の銅生産」や「秋吉台の地形について」などの地域の歴史や産業に密着したものを取り上げることによって、生徒の地域に対する関心や知識を高め、高校進学後に対応する社会的な学習の準備だけでなく「総合的な学習の時間」や総合教科「秋吉台学」などへの高い関心を喚起するよう工夫してきた。また社会科の授業だけにとどまらず、「総合的な学習の時間」での校外研修事前指導においても、高校教員の高い専門性を生かした授業を展開することによって、訪問する地域に関する興味を高めるように努力してきた。

実践に際しては事前に数回にわたって綿密な打ち合わせを行い、また授業の舞台となる学校の実態と要望を十分に把握した上での授業展開であったので、先に掲げた目標にある程度達することができたと考える。また教員と生徒の双方が、日頃と異なる環境の中で適度な緊張感を持って授業に臨むことで新鮮な感覚を持つことができ、積極的な姿勢の目立つ充実した時間を持つことができたのではないかと考える。

ウ 今後の課題と展望(まとめ)

最近各学校とも業務の多忙化によって、相互の授業参観や協議の時間を設けることが以前に比べて難しくなりつつある。教科の特性上各校の情報交換と事前の入念な打ち合わせは重要であるが、そのための時間を十分に確保できないため単発的な授業交流にとどまり、長期計画的な連携事業を行えない大きな原因となっている。それでも今年度はこれまでに比べて目標に近い授業数を確保できたものの、それでも当初の理想とする姿には及んでいないと思われる。

このことを大きな反省点として、今後はより一層時間の確保に努めるとともに、各校間の情報交換を密にし、6年間で生徒の身につけさせたい社会的な知識や能力についての認識を共有し、そのために具体的に何ができるのかを継続的に協議していきたいと考えている。

(5) 理科

ア 概要

今年度（平成19年度）は、中高一貫教育の理科の取組として、年に1回程度、高校側から連携中学校に出向いての授業をした。計画については、年度当初の連携四校合同研修会において、連携三中学校と本校との四校で理科部会を開き、年間の活動計画を立て共通理解を図った。具体的には、秋芳北中・秋芳南中・美東中の選択理科や通常の理科の授業の中で、顕微鏡観察を実施することを計画した。

イ 実施授業内容

準備として、タマネギの水栽培で、根端を入手する方法もあるが、タマネギの種子が種苗店で入手できる。この種子をろ紙をしき水で湿らせ発芽させる。発芽させた種子を45%酢酸で20分間固定する。その後固定した根を希塩酸（3～4%）の入った試験管に入れ、60℃の湯の中に1～3分間浸し、解離する。ここまでは授業までに準備しておく。生徒にスライドガラスを2枚程度渡す。水洗した根をスライドガラスにのせ、先端から2mm程度の白く不透明な分裂組織を切り取り、柄付き針等でみじん切りするようにはぐす。この作業を充分にしておくときれいな像を得ることができる。酢酸オルセインを数滴落として、約5分間染色する。カバーガラスをかけ、ろ紙をはさみ親指でずれないように強く押す。低倍率で分裂中の細胞を探し、高倍率で細胞の様子を観察する。スケッチは中期と後期をよく描く。細胞周期における各時期の細胞数については中学生であるので、説明については割愛した。

ウ 成果と生徒への還元

2学期において、3中学の理科の授業の中でタマネギの根端の分裂している細胞を観察させた。対象の生徒は1学年から3学年で年齢に幅があった。そのため1学年ではタマネギの種子の何をやっているのか理解できず、言われるままに実験をこなした感じがあった。3学年では、顕微鏡の扱い方、形態の観察についてもよくやった。分裂細胞についても知識があり、染色体等の生物用語を知っている生徒もいた。タマネギが根を伸ばし大きくなるのと同じように、人も受精卵からお母さんのお腹の中で大きくなって赤ん坊として生まれ、段々細胞分裂をくり返し大人になることなどよく理解していた。生命の神秘を感じる生徒がいたとしたら成功したと考える。



エ 今後の課題と展望（まとめ）

今回理科での交流授業を実施して、次のような課題があると考えられる。高校入試を控えた3学年の生徒にとって、日々の授業の取組が進路に向けての重要な時間であり、個々の授業は、その進度に直結している。その点を考慮して、できるだけ進度の妨げにならないように、立案した。大事な時期であるだけに繊細に考えたい。今後は、6年間の理科の指導計画にどのように位置付けるかを検討していく必要がある。また高校教員による授業は中学の生徒にとって高度な学習を学ぶという面で刺激的であり、授業中での高校教員とふれ合ったり、理系の上級学校などの情報も得られたりすることができ、キャリア教育の位置付けの中でも将来に向けた進路選択の一環と捉えることもできる。

(6) 保健体育

ア 取組のねらいと概要

授業交流、合同研修会での年間指導計画の検討、新体力テストの結果の利用により、高校側としては、中学校での学習内容や生徒の実態を把握することにより、高校入学後も生徒の実状に応じた指導ができる。

生徒にとっては中高で継続して学習する種目があれば、6年間を通して親しむことになり、より技能を高めたり知識を深めたりすることができる。また、中学校で習得したことについては高校では復習程度で済み、効率よく次の段階の指導に進むことが可能となる。

中高の教員の交流は、各教員の専門分野の指導についての研修にもなり、各教員の授業展開に役立てていける。

イ これまでの取組と成果・生徒への還元

(ア) 授業交流について

これまで中学校の授業を中高の教員で、T・Tのかたちで1年に1～2回実施してきた。このことで高校の教員が中学生の技能や取組の姿勢などを把握でき、高校の授業展開に役立っている。その一例として、中学校の授業での用具やボールの工夫を参考に、高校でもバレーボールやバスケットボールの授業に生徒が扱いやすいものを用意した。

生徒側のことで、T・Tで指導を受けた教員に高校進学後も授業を受けることになり、高校入学直後でも、高校の教員に親近感を持って授業を受けることができています。

今年度の授業交流としては、中学3年生の水泳の授業を、中学、高校の教員で実施した。1グループ7～8人の生徒に対して教師一人がつき、個々の能力にあわせて指導を行ったことで生徒には理解しやすく、ポイントを押さえた授業となった。生徒も初めての教員の指導であったが、意欲的に活動し、技能を伸ばすことができた。また、参観した教員にとっても生徒一人ひとりに対してポイントを絞った指示の仕方などの研修になり、今後の授業に役立てたいと考えている。

(イ) 年間指導計画と新体力テストの結果の利用について

平成16年度から中高一貫教育合同研修会に、各校の年間指導計画と新体力テストの結果を持ち寄り、各校の実情を報告し合っている。中学校の年間指導計画により、高校では種目によっては中学校の指導内容を踏まえた上で授業展開が考えられるようになった。

新体力テストの結果については、各校の体力・運動能力の状況を報告し合う程度に留まっているが、各校での授業の運動量や内容について振り返る資料としている。

ウ 今後の展望と課題(まとめ)

これからも授業交流や合同研修会での情報交換を通して得たことを取り入れ、授業内容や指導方法の工夫や改善をしていきたいと考えている。なお、4校の教員が集まれる機会は多くないので、効率よく内容のある授業交流や研修会をすすめていく必要がある。

(7) 芸術(音楽)

ア 概要

今年度は、授業交流は郡中教研音楽部会の研究授業に参加する程度に留まったが、部活動の交流は盛んに行った。また小学校との交流も積極的に行った。また初の試みとして授業の成果を文化祭や秋吉保育所で発表し好評を得た。

イ 今年度の活動内容

- ・ 6月15日 山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会(会場:宇部市渡辺翁記念会館)へ吹奏楽部が出演。
- ・ 6月23日 文化祭 恒例の吹奏楽の演奏の他に、2年音楽の授業で練習したハンドベル演奏、3年音楽で練習した器楽合奏を披露した。
- ・ 7月10日 ふれあいコンサート(会場:音楽室)例年行っている吹奏楽部と地域のこどもたちとの交流会。今回は秋芳町立別府保育所と嘉万保育所の園児を対象に行った。
- ・ 7月28日 全日本吹奏楽コンクール山口県大会(会場:周南市文化会館)に吹奏楽部が参加。高等学校Cの部に出演し、金賞を受賞。おしくも3年連続コンクール特賞受賞は逸した。連携学校としては秋芳北中学校、美東中学校もこの大会に参加している。
- ・ 9月27日 交通安全マスコット配布活動(会場:秋芳町立体育館前)JRC部と家庭クラブが作成したマスコット配布の際に、吹奏楽部が演奏を披露している。
- ・ 11月3~4日 ミュージックフェスティバル(会場:秋吉台国際芸術村および周辺)平成18年度に開催された国民文化祭やまぐち2006の内、秋芳町で開催されたミュージックフェスティバルを引き継ぐ形で開催された。本校吹奏楽部が秋芳洞入り口で演奏で参加。また、こどもライブに美祢高生も演奏やボランティア等で参加した。
- ・ 11月7日 美祢郡中学校文化祭(会場:秋吉台国際芸術村)意見発表、英語発表とともに吹奏楽部演奏を発表している。
- ・ 11月11日 秋芳町文化祭(会場:秋芳町立体育館周辺)美術作品の展示と吹奏楽部による演奏で参加している。年によっては秋芳南中吹奏楽部と合同演奏をすることもある。
- ・ 12月19日 校内合唱コンクール(会場:秋吉台国際芸術村)生徒会が主催であるが、教科として全面的に協力している。今年も教員合唱を披露した。
- ・ 1月5日 秋芳町消防出初め式(嘉万上市公会堂前)
- ・ 2月13日 2年児童文化・音楽発表会(会場:秋芳町立秋吉保育所)今年はいじめて、この授業で準備・学習したハンドベル演奏、BGMをつけた紙芝居上演を行い大変好評であった。
- ・ 3月11日 嘉万小学校マーチングバンドとの音楽交流会(会場:音楽室・柔剣道場)今年で2回目を迎える。前半パートごとに交流し、後半は「New World Symphony」を合奏した。この曲は23日のプラスフェスタで合同演奏を披露した。

- ・ 3月23日 プラスフェスタ in あきよし（会場：秋吉台国際芸術村）今年で11回目を迎える連携学校4校吹奏楽部の発表会。今年はゲストに嘉万小学校マーチングバンドと山口ブラスソサエティを迎えそれぞれの発表や合同演奏を行った。
- ・ 他に、高校吹奏楽部顧問が連携中学校吹奏楽部、嘉万小学校マーチングバンドの指導を行っている。

ウ 今後の課題と展望(まとめ)

市町合併にともない、旧秋芳町の行事（町民文化祭、消防出初め式、町体育大会）などがどうなるかまだわからないが、地域とのふれあいが疎遠にならないよう今後の活動を考えていく必要がある。

(8) 芸術(美術)

ア 概要

これまで鑑賞の基礎的な能力や態度を育てる取組を、名画の複製、文化遺産、文化財、美術館の作品などを通して行ってきた。また、昨年は美東中学校で、地域の彫刻作家であり、美祢高校の美術教諭でもある濱野教諭を講師として招き、立体作品の魅力を味わわせる研究授業を行った。生徒たちも十分満足し、彫刻をより身近に感じることができた授業であった。昨年度に引き続き、研究主題を「創造性を伸ばすための鑑賞指導～地域の作家と作品～」とし、本年度は秋芳南中学校の2年生を対象にした鑑賞の指導をおこない、より身近で味わい深い美術鑑賞につなげていきたいと考えた。

イ 研究活動および内容

- 5月1日 研究主題の決定・活動計画立案(秋芳南中学校)
- 11月6日 郡中文化祭準備・作品搬入・展示(秋吉台国際芸術村)
- 11月7日 郡中文化祭作品展示見学(同上)
- 11月22日 研究授業・山口県学校美術展覧会美祢郡支部審査(秋芳南中学校)

ウ 成果と課題

生徒は1年生で針金による彫刻作品、2年生では石膏の直方体を使った抽象彫刻作品を制作してきた。彫刻作品の魅力が少しずつわかってきていると思われる。今回はこれまでの自分の彫刻体験を振り返るとともに、作家がどのような思いで制作しているのかについて、作家自らの話を聞くことにより、一層彫刻に親しみ、関心や鑑賞力を高めることができると考えた。

鑑賞の基礎・基本的能力を育成していくためにはいろいろな方法があるが、身近なところでいろいろな機会を捉えては鑑賞的活動を行うことが大切であると考え。特に濱野教諭の作品は宇部市の野外彫刻展やその他の公共の施設などでその作品を鑑賞することができ、また生徒が使用している美術資料にもその作品が掲載されている。そういった地域の作家の作品に込めた思いや制作談などを実際に聞くことは、生徒にとって鑑賞の幅を広げ、作品を見る視点に変化をあたえる機会となったことが感想文を通して理解できた。

今後も山口県内の作家や関係機関との連携を密にし、鑑賞の機会を増やしていくことにより、生徒の美術への関心を一層高めたい。

美術科学習指導案

平成19年11月22日(金)3・4校時

第2学年19名(男子11名 女子8名)

指導者 小田善郎 T1

講師 濱野邦昭 T2

1 題材 「私の彫刻制作(鑑賞)」(2時間)

2 本時案

(1) 主眼

地域に在住している彫刻家の作品に触れ、彫刻家本人から直接、制作に関する話を聞くことを通して、作家の作品への思いや工夫、制作姿勢を知る。

(2) 準備 VTR

(3) 指導過程

学習内容・活動	留意事項
1 これまでの彫刻制作を振りかえる。 T1	1年の針金彫刻や2年の石膏彫刻を思いだし、彫刻の制作や特徴について簡単に確認する。
2 濱野教諭の自作の小作品を鑑賞し、気づきや質問を発表する。 T1	感想や質問を簡単にメモさせ、発表させる。(質問については自作の説明時に答える。)
3 濱野教諭から彫刻制作について話を聞く (1) 濱野教諭の彫刻との出会いと彫刻制作について話を聞く。 各自で必用ならメモをする。 ・彫刻への興味をもつきっかけや影響されたことなど。 休憩 作者の制作に対する思いや姿勢を理解する。 T2	濱野教諭についての簡単な紹介をする。 T1 彫刻制作について。実物や写真を見せる。 ・石膏レリーフ ・制作の順序がわかる写真 ・自作の小作品 休憩 ・作品の制作意図やそのための工夫点 ・日頃から努力しているところなど
4 質疑応答 T2	
5 VTR視聴 T2	映画「ミケランジェロ」の最初の部分を視聴させる。
6 本時の感想を書く。	プリントに記入させ、後日提出させる。

(4) 評価

ア 彫刻の特徴や制作の手順について知ることができたか。

イ 彫刻に対する作者の思いや表現の工夫、制作姿勢を深く知ることができたか。

(9) 家庭

ア 概要

今年度は、中高連携授業の取組として授業交流を進め、中学校・高等学校において中学校教諭・高等学校教諭とTTをおこなった。また、お互いに交流を深めるため夏季において教材研修を行った。

イ 研究活動および内容

- ・ 5月28日(美祢高等学校)：顔合わせ
- ・ 6月1日(美祢高等学校)：被服実習によるTT実施
- ・ 8月24日(美東町民センター)：今後の交流について
- ・ 8月27日(秋芳南中学校)：教材研究
- ・ 9月19日(美東中学校)：顔合わせ、情報交換
- ・ 10月2日(秋芳北中学校)：被服実習によるTT実施
- ・ 10月22日(秋芳南中学校)：被服実習によるTT実施

ウ 中学校によるTT

高等学校教諭とのTTによる被服実習に取り組んだ。ファイルカバー制作のミシン縫いで、直線縫いと方向転換の学習を行ったTTにより、生徒のつまずきに対する必要に応じた対応や介入をすることができた。

エ 高校によるTT

中学校教諭とのTTによる被服実習に取り組んだ。生徒がデザインした模様を刺し子にし、巾着にするためミシン縫いをおこなった。中学でおこなったTT同様、進度の異なる生徒への対応等複数教員がいることで必要に応じた指導と介入をすることができた。

オ 「食分野」における教材研修

日々の生活の中で、特に「食」は欠かすことができない。小中高と「食」について学ぶわけであるが、学習内容が重なる部分も多くまた全く違った形で生徒へ教えることもある。そこで今年度は、食品の栄養について中高どのように教えていくかを研究した。

「食事バランスガイド」についての復伝

高教研家庭部会において「食事バランスガイド」の研修があったものを中学校教諭に復伝した。特に活用時の注意点としては基本の栄養など学んだうえで、「食事バランスガイド」を活用することを伝えた。

栄養学習における今後の対応について

「食品群」の指導で中学校では6群・高校では4群という点については、学習指導要領に定められた各校で抑えるべき内容である。食品群を学習した上で「食品の栄養成分」について指導する。中学校は「成分表」の見方を抑えること、高校では

発展的にコンピュータを活用し、栄養のバランスを考えた献立ができるように指導することとし、中高の発達段階による抑えるべき内容を確認した。また「食」の学習における中高を通した反復的な学習の取組について確認を行った。

カ 今後の課題と展望(まとめ)

今年度は、新しい取組として中学教員と高校教員の教材研修を行った。専門教員の少ない中で、最新の話題や教材などお互い情報交換することは大変有意義であった。

ただし、常勤でなく非常勤の先生との交流は制限されることが多く、今後の大きな課題となった。

- ・ 包丁の扱いに慣れることを目的に、包丁を扱うことへの関心を高めること。
- ・ 危険回避能力を育てること。(道具の扱い方・調理操作など)
- ・ 調理計画を通じて、能率的な取組が実践できることを目指すこと。
- ・ だれとでも協力する態度を育てること。今後も中高連携を深め、専門性を生かした発展的な授業展開や実技実習での適切な介入を目指して研修を進めたい。

(10) 養護

ア 中高一貫教育合同研修会

平成 19年5月28日(月)

中学校・高等学校の保健室の実態、健康上配慮の必要な生徒や気にかかる生徒の様子等についての情報交換を行った。また、今年度中高連携で取り組む事柄についての確認を行った。

イ 火道切り

平成 19年 11月15日(木)

救護担当として、美祢高等学校、美東中学校から養護教諭が参加した。

ウ 学校保健委員会

平成 19年 12月6日(木)

平成16年度より、美祢高等学校の学校保健委員会に連携3中学校の養護教諭が参加している。その中で、「保健室から見る子どもたちの様子」というテーマで意見交換を行った。また、子どもたちの体調不良の背景に、生活習慣の乱れがあるのではないかと考え、基本的な生活習慣の調査と比較検討を行った。



エ 中学校教育研究会との合同研修

平成 19年7月12日(木)

「生きる力」を育てる保健室経営のあり方を研修テーマとし、「悩みや不安を抱える生徒への支援について」という題材で美東中学校スクールカウンセラーを講師にワークショップ、コラージュ体験を行った。活動を通して、心の状態を読む方法を学ぶことができただけでなく、作品を通して、コミュニケーションをとりながら、人間関係を築いていくことや、子どもの成長の変化を知ったり、持っている力を引き出すエンパワーメントについて、カウンセリングマインドについても通じるものを得た。研修後、保健室来室生徒の対して実践している学校もあり、実のある研修となった。

3 美祢郡中学校教育研究会との連携

美祢郡中学校教育研究会（中教研）の教科部会と中高一貫教育の教科部会は、連携して活動してきた。表は、各教科で中学校教員と高校教員が共に参加した授業の一覧表である。中教研として計画した授業もあれば、中高一貫教育として計画した授業もある。例えば、国語科は12月11日に美東中で中学3年生を対象にして、中学校教員1名がT1、高校教員2名と中学教員3名がT2となり、計6名の教員で面接練習の授業を行った。また、数学科は11月5日に美祢高校で高校1年生を対象にして、中学校教員が投げ込み教材で授業を行った。以上のように、美祢郡中学校教育研究会の教科部会と中高一貫教育の教科部会は、連携して活動することで中学校教員と高校教員の授業力アップを図ったり、生徒の情報交換をしたりしながら確かな学力の定着をめざして取り組んできた。

教科	期 日	場 所	授業者		対象生徒		内 容
			中	高	中	高	
国語	4月25日	美 祢 高				1年	「口語文法の復習 - 動詞の活用」
	7月6日	秋芳北中				3年	「俳句に親しもう」
	7月9日	秋芳南中				3年	
	7月9日	美 東 中				3年	
	12月7日	秋芳南中	T1	T2	3年		「場に応じた言葉遣い - 面接練習 - 」
	12月11日	美 東 中	T1	T2	3年		
12月20日	秋芳北中	T1	T2	3年			
社会	10月12日	美 東 中				1年	地理的分野「身近な地域を調べよう」 美祢高校教員が授業を行う
数 学	7月5日	秋芳北中				3年	「平方根」
	7月9日	美 東 中				3年	
	7月12日	秋芳南中				3年	
	11月5日	美 祢 高				1年	「図形の点・辺・面の数」 「高さを計算しよう」
	12月17日	秋芳北中				3年	
	12月17日	美 東 中				3年	
理 科	11月15日	秋芳北中				3年	選択理科「染色体の観察」 「染色体の観察」 選択理科「染色体の観察」
	11月21日	秋芳南中				3年	
	11月22日	美 東 中				1年	
音楽	9月19日	美 東 中				2年	「合唱の表現力を高めよう～虹」 美祢高校教員が授業研究に参加 「オーケストラの響き」 美祢高校教員が授業研究に参加
	12月17日	秋芳北中				2年	
美術	11月22日	秋芳南中	T2	T1		2年	「彫刻作品の鑑賞」
保健 体育	7月12日	秋芳北中				2年	「水泳」 ロードレース大会における美祢高校教員による指導
	10月22日	3中学校				全	
技術 家庭	6月1日	美 祢 高	T2	T1		2年	家庭一般 ミシン実技「弁当袋の作成」 ミシン実技「ファイルカバーの作成」
	10月2日	秋芳北中	T1	T2		1年	
	10月22日	秋芳南中	T1	T2		1年	
英 語	7月12日	美祢高				1年	「慣用表現を使ったコミュニケーション活動」 「英作文」
	9月27日	秋芳北中				3年	
	11月29日	秋芳南中				3年	
	12月17日	美 東 中				3年	「会話表現」
	10月4日	秋芳南中				3年	
	11月19日	美 東 中				3年	
	12月17日	秋芳北中				3年	「語彙」
	10月11日	美 東 中				3年	
	11月13日	秋芳北中				3年	
	12月12日	秋芳南中				3年	「U7カナダの学校Part 2 今何時」 美祢高校教員が授業研究に参加
	11月22日	秋芳北中				1年	

図表 4

4 基礎学力診断テスト

(1) 取組概要

生徒の基礎・基本の到達度を把握し、6年間にわたる学習指導へフィードバックさせて、基礎学力の定着・向上を図るため、中学校全学年の国語科・数学科・英語科で各学期に1回ずつ基礎学力診断テストを実施している。問題は、中高4校の教員が共同で作成し、中学校3校の共通問題とし、また、高校においては数学科・英語科で第1学年、国語で全学年を対象として継続実施している。

診断結果については、各教科において分野別に正答率を計算し、平均点との差が視覚的に捉えられるようグラフを用いて個人票を作成している。得意分野と不得意分野がわかりやすく、今後の学習に役立てやすいと生徒に好評で、長期休業期間等を利用して補習や課題学習を行い、きめ細かな指導を実施している。また、そのデータを連携4校で共有し、生徒一人ひとりの基礎・基本の定着度や学力の面で課題を分析・掌握して、各教科の指導に役立てている。

(2) 教科別の状況(英語、数学、国語)

ア 英語

例年通り、中学校は全学年を対象に学期に1度(3年は1・2学期のみ)、高校は1年生のみ2学期の終わりに実施した。

今年も基礎的文法事項と各学年の新出文法事項を単元別に大問で取り上げ、全部で50問という形式も踏襲した。同じ形式の作問により、文法項目ごと、学年単位の基礎学力を把握することができた。昨年度までは問題形式はすべて記号選択式だったが、語彙力を高めるために今年は記述式も取り入れた。

問題は時間をかけて検討された良問という自負があり、学力補充や復習のために積極的に授業等でも活用し、基礎学力の定着を図っていきたい。

イ 数学

中学校全学年及び高校1年生で各学期1回の実施をした。ただし、中学3年生と高校1年生に対しては、3学期は実施していない。基本的な知識や考え方、計算の出題に加え、昨年度より中2,3生のテストには、「推論の問題」を出題している。昨今、文章題から数学的事象を読み取る力や、読み取ったことを数学的な見方・考え方を応用して解決する力が重要視されていることへの対応である。実施後は「小問ごとの正誤・正答率」、「分野ごとの正答率」、「分野ごとの正答率と個人の正答率との比較グラフ」からなる個人票を作成し、生徒に配付している。

テストの全体平均正答率は70%程度で推移し、基礎学力診断という目的に適った出題となっている。生徒一人ひとりがどの分野のどのような問題につまずいているかが、個人票でわかりやすく示されており、その後の個人指導に生かされている。また、「推論の問題」は、過去の公立高校入試や私立中学入試を参考に作られたが、この問題の出来不出来が他の分野の力と必ずしも一致していない結果が表れ、これまで測れなかった生徒の学力を診ることに役立った。テスト実施から5年が経過し、一定の成果は得られたと考える。今年度は、テストの実施と実施後の処理がスムーズにできるよう、問題の精選

- ・整理を進めた。

ウ 国語

基礎学力診断テストは、中学1年生から高校2年生までを対象に、各学期実施し、基礎学力の定着を図った。本年度は、中学は昨年同様、漢字・文法・言葉の知識の三分野、50点満点。高校は、現代文法を学習する機会がほとんどないため文法の出題をやめ、新たに文学史を入れて漢字・言葉の知識・文学史の三分野、50点満点とした。

作成については5年間分の出題範囲を決め、毎回各教員で分担する形が定着したので、スムーズに作成できるようになってきた。しかし、実施に当たっては、予習・復習が定着していない生徒が多く、学習への意識付けをどのようにしたらよいかが今後の課題である。全体として、教員の異動によって、基礎学力診断テストの実施やデータ処理をはじめ、交流授業等に揺れがないようなシステム作りが望まれる。

Ⅲ 「ふるさと・秋吉台」をテーマとする学習

1 概要（総学、秋吉台学、火道切り等について）

「ふるさと・秋吉台」をテーマとする学習で取り組む内容と、平成19年度の基本的な考え方は図表5、6のとおりである。

取り組む内容
秋吉台に関わる多様な行事に参加し、地域の伝統的な精神・文化を理解し、継承する。 「ふるさと・秋吉台」を「総合的な学習の時間」のテーマとして、継続的、計画的な学習をするとともに、中高の交流を行う。 高校2年生の「秋吉台学」で「ふるさと・秋吉台」の内容を発展させる。

図表 5

平成19年度の基本的な考え方
地域行事への積極的な参加 ・火道切り作業の実施 ・地域の多様な行事に参加 ・地域の伝統行事の継承 「ふるさと・秋吉台」に関する学習の充実 ・「総合的な学習の時間」の充実 ・高校の学校設定科目「秋吉台学」の充実・発展

図表 6

昨年同様、地域への積極的な参加行事として、火道切り作業を中高合同で実施した。また、合同ではないが中高それぞれが秋芳町文化祭に参加して地域との交流を図った。

「総合的な学習の時間」については調べ学習や体験学習の様子を、写真などを活用しながら紙面にまとめ、郡中文化祭で展示し合った。これらの学習は美祢高校での秋吉台学でさらに詳しく学習することになり、将来の自己実現に大きな役割を果たすこととなる。

	中学校（北・南・東）	中高合同	高等学校
4月	1年野外活動（北・南）		秋吉台学～12月
5月	2年野外活動（南） 3年修学旅行 （北・美東・南）		レクチャーコンサート
6月			
7月	2年郡内探訪（北）		
8月	1年宿泊研修（美東）		
9月			
10月	美中祭（美東）		
11月	秋芳町文化祭（北・南）	郡中文化祭 火道切り作業	秋芳町文化祭
12月			
1月			
2月	総合的な学習発表会（南）		
3月			
備考	（高）美祢高、（北）秋芳北中、（南）秋芳南中、（東）美東中		

図表 7

2 総合的な学習の時間、秋吉台学について

(1) 平成19年度秋芳南中学校「総合的な学習の時間」全体構想

めざす生徒	楽しく学び、あれこれ工夫し、いきいき表現できる生徒	
全体テーマ	「我が町、秋芳町」について	
	1年ふれる・知る学習	2年つくる・伝える学習
生徒像	自ら調べ、まとめることができる生徒	収集した情報をあれこれ活用できる生徒
つけた力	<ul style="list-style-type: none"> 目的をもって調べようとする力(意志) 体験を通して考えたり、調べたことで生じた新たな疑問を解決しようとしたりする力(将来) 自分の調べたことをコンピュータ等を使ってわかりやすくまとめたり、発表したりする力(情報) 友達と協力して調べ学習を進めていく力(人間) 	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習や体験活動を通して、自分で課題を解決しようとする力(人間・意志) 自分たちの調べた情報を処理し、発信する力(情報)・秋芳町を深く理解し、より良くしていこうとする力(将来) 友達と協力し、学び合おうとする力(人間)
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 秋芳町の自然・歴史・文化・生活を体験活動を通して調べる。 地域のことに詳しい人の話を聴く。 地域のことが地域外とどのようなつながりがあるかを調べる。 コンピュータを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年での学習や体験したことをより深めていく。 学習したことをより効果的にアピールする方法を考え、取り組む。 他地域との関わりの中から秋芳町の特徴や魅力をより明確にしていく。 職場体験を通して、より地域を知り、勤労の尊さや今後の進路について考える。
具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> 長登銅山跡見学・宿泊学習 4月 草炎太鼓 9月 職場訪問学習 11月 郡中文化祭 11月 発表会 2月 情報学習 3学期 	<ul style="list-style-type: none"> 徳地青少年自然の家宿泊学習 5月 草炎太鼓 9月 職場体験学習 10月 郡中文化祭 11月 発表会 2月 情報学習 3学期
キャリアの視点	<ul style="list-style-type: none"> 秋吉台での宿泊学習を通して、親睦を図り、友達づくりができたか。 友達と協力して職場訪問を行い、積極的に地域の職場や働く人に感心を持って調べ学習に取り組むことができたか。 協力して活動のまとめや、発表を行えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 徳地青少年自然の家での宿泊学習やまとめの活動を通して、人間関係づくりの大切さを学ぶことができたか。 職場体験学習を通して地域の人とふれ合い、勤労の尊さや働くことの意義について関心を高めることができたか。 協力して活動のまとめや、発表を行えたか。
生徒の思い	<ul style="list-style-type: none"> 秋芳町のいろいろな場所に行って調べてみたい。 友達とこんなところへ行って、こんなことがわかった。 調べ方がうまくなった。 来年はもっと詳しく調べてみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べ方がわかったから、今年はこんな計画でやるぞ。 どんなまとめかたや発表の仕方がみんなが興味をもってくれるかな。 かなり秋芳町のことに詳しくなったぞ。 来年はこんな活動で、学習したことを生かしていきたいな。

図表 8

	楽しく学び、あれこれ工夫し、いきいき表現できる生徒
	「我が町、秋芳町」について
	3年参加する学習
	生徒像 感謝と思いやりの気持ちをもって活動できる生徒
つ け た い 力	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を設定し、人と豊かにコミュニケーションしながら実践していく力（意志・人間） ・調べたことやものが、学校生活や地域によりよく役立つものになるための提案ができる力（情報・人間） ・自分の生き方が考えられると同時に、他人や地域に積極的に奉仕できる力（将来）
学 習 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・秋芳町の特徴や現在かかえている問題点などに気付き、それらに自分がどのように関わっていけるかを考え、取り組んでいく。 ・これまでの取り組みを通して、今後の自分の進路についてより明確にしていく。
具 体 な 活 動	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良・京都・大阪宿泊学習（修学旅行） 5月 ・草炎太鼓 9月 ・高校紹介 8～11月 ・火道切り 11月 ・郡中文化祭 11月 ・奉仕活動 3学期 ・発表会 2月
キ ャ リ ア の 視 点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域におけるボランティア活動を通して、ふるさとの福祉について深く考え、実践することができたか。 ・協力して活動のまとめや、発表を行えたか。 ・自分の夢に向けて、今何をすべきか、今後どういう方向を目指すべきかを考えることができたか。
生 徒 の 思 い	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んだことから秋芳町のすばらしさを自信を持って全国に発信できるぞ。 ・私たちが役立てるところがこんな所にあった。 ・課題をもって調べ、まとめるって、自分でもこんなにできるんだ。

図表 9

(2) 平成19年度美東中学校「総合的な学習の時間」全体構想・計画

名称	チャレンジタイム		リサーチタイム						ネットワークタイム	
	内容	時間	1年	時間	2年	時間	3年	時間	(全)(2・3年)	時間
ねらい	他者とともによりよいものを目指して創造したものを、他者に発信する。		見聞を広めることによって、進路学習を充実させ、将来への夢を育てる。						人間関係を大切にしながら、人の役に立つ喜びや一つのことをやり遂げた達成感を味わい心を豊かにする。	
学年	全学年									
内容	調査研究発表型学習 美中祭	36	宿泊研修 進路学習	9 7	職場体験学習 進路学習	17 10	修学旅行 進路学習	41 5	しめ縄作り(全) 体育祭練習(全) 火道切り(2年) ボランティア(3年)	2 13 6 6
4月					職場体験事前学習	1	修学旅行準備	6		
5月	刺繍エッセイ 個人課題設定	2	宿泊研修事前準備	3	職場体験先への事前訪問・マナー学習 職場体験 職場体験新聞作成	3 11 2	修学旅行準備 修学旅行の 評価・反省 ・新聞作成	29 6		
6月	分科会決定 課題再検討 活動計画策定	4	宿泊研修	6						
7月	解決方法検討	3							体育祭打ち合わせ(全) 美祿高体験入学	4 2
8月	調査・制作研究						高校生に話を聞く会	4		
9月	中間発表	4							体育祭練習(全)	9
10月	解決方法検討 調査・制作発表準備 発表会 評価・反省	23								
11月							進路学習	1	火道切り(2年)	6
12月～3月			働くことの意義・職業調べ 働く人に学ぶ会 職場体験先決定	3 2 2	高校調べ 修学旅行事前学習	5 5			しめ縄作り(全) ボランティア(3年)	2 6

図表10

(3) 平成19年度秋芳北中学校「総合的な学習の時間」学習単元一覧表

学期 月	1				2				3		
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
1年 38時間	「ふるさとを知る(秋吉台・秋芳洞)」(計35時間) 【宿泊研修「秋吉台少年自然の家(18時間)」、冊子作成、発表会を含む】								「ふるさとの先達に学ぶ」(計3時間) 【地元で働く人から話を聞く(2時間)まとめ(1時間)】		
2年 58時間	「ふるさとで学ぶ」(計51時間) 【郡内探訪15時間、事前指導、郡内探訪6時間、まとめ】				【職場体験学習36時間、事前指導、職場体験18時間、まとめ】		「火道切り」(計7時間) 【事前指導1時間、当日5時間、事後指導1時間】				
3年 88時間	「奈良・京都で学ぶ」(33時間) 【修学旅行18時間、事後指導、新聞作成を含む】				「ふるさとへの発信」(35時間) 【校外調査学習、情報、冊子作成、発表会を含む】				「中学校生活を振り返って」(15時間) 【卒業文集作成】		
全学年 縦割り 20時間	「伝統芸能継承活動(縦割り)」 (20時間) 【別府念仏踊り・花作り】										
全学年 共通 17時間					「創造の時間」 (7時間) 【全校合唱練習】						
1・2年 共通 5時間									「創造の時間」 (5時間) 【3年生を送る会】		

1年・・・70時間、2年・・・90時間、3年・・・110時間

図表11

(4) 秋吉台学

ア 講座の概要

本校の位置する秋芳町は、秋吉台を始め豊かな自然に囲まれている。郡内在住者の多くはその恩恵に浴しつつ、地場産業に従事し、歴史を刻み、生活を営む場であるとともに、学問的・文化的あるいは産業的に極めて高い価値を持っている。このような地域の特性や歴史、文化などについて多角的に学び、広く探求することは、自己の在り方生き方を見つめ直す観点からも、将来の自己実現に極めて大きな役割を果たすものである。

本講座は、秋吉台の持つ学問的成果を多角的に検証することや、新たな視点で見つめ直し探究活動を深めることなどにより、自己の能力を深め、地域に有為な成果を生み出すものと位置づける。

イ 取り組みの成果と生徒への還元

本講座を実施するにあたって、生徒の自発的・意欲的な学習態度を育むために、可能な限り体験的な学習や調査学習、創作・発表活動などを導入し、教室での一律的な座学授業は必要最小限にとどめた。また、秋吉台の専門家や地元有識者による講義・講演の機会も計画的に設定し、地域の教育力の活用を図った。

まず1学期は、オリエンテーションとして前年度の学習成果の紹介や秋吉台に関するVTR視聴を行った後、秋吉台自然博物館の館長より秋吉台の概要について、一年間の基調となる講演を受けた。その後、春の秋吉台の植生観察や洞窟内探検などの野外活動や、弁天池などを中心に秋吉台周辺の水系観察を行った。また、校内では地図等高線に関する講義や等高線の加工作業を行うなど、知識ではなく、作業学習を通じての定着を図った。

2学期は、秋の秋吉台の植生観察や実際の化石加工作業を通じて、秋吉台の四季の移り変わりや自然の成り立ちを体験的に学習した。また、長登銅山跡や秋吉台エコミュージアムなどの施設を訪れ、それぞれ地元の有識者から詳しい解説を受けるなど、秋吉台周辺の歴史や地形・水系についても体験的に学習した。加えて今年度は、今までよりも行動範囲を広げ、美祢市の美祢市化石館・美祢市歴史民俗資料館、大岩郷や南原寺など新たな場所にも積極的に訪問し、生徒の見聞を深めた。3学期は、これまでの学習成果をまとめて外部に発信する手段として、秋吉台の紹介HPの作成を行った。

ウ 今後の課題と展望(まとめ)

最初は手探り状態でスタートした本講座も本年度で4年目を迎え、ようやく学習内容が充実してきた。例えば以前より課題であった天候の問題も、これまでの成果を生かすことによって、本年度は最初から晴天用・雨天用二本立てのメニューを準備し、必要に応じて実施順序を組み替えるなど、余裕のある編成が可能となった。また、活動範囲が広がり学習内容も豊富になったことによって、生徒の側にもより主体的に意欲を持った取組が見られるようになった。今後は、江戸時代から現代にかけての秋吉台の歴史や動物など、これまで手薄だった分野も積極的に開拓し、より学習内容の充実を図りたい。また学習成果の発表方法についても、個人的な制作物にとどまることなく、選択者全員が一年間を通じて共同で取り組めるような、より達成感のある制作物も手がけられるような条件と環境の整備に努めていきたい。

3 火道切り

(1) 概要

ア 目的

(ア) 地域の重要な行事である秋吉台の山焼きのための草刈り作業を通して、自分たちの学校のある地域への関心を高める。

(イ) 集団の一員として、自他の安全に留意しながら、積極的に協力し、責任をもって作業を成し遂げる態度を育てる。

(ウ) 中高一貫教育の一環として、郡内4校の代表学年が一堂に集い、地域の自然を守るための体験学習をする。

イ 日 時 平成19年11月15日(木) 11:30~15:30

ウ 活動場所 秋芳町嘉万青景水の上地区

エ 参加者 美祢郡内3中学校及び、美祢高等学校の代表学年生徒 合計155名

オ その他 生徒全員が火道切りの感想を俳句または短歌にし、4校で作品を交換する。

(2) 研修の成果と生徒への還元

秋晴れの空の下、4校の生徒約150人が慣れない鎌を手にとり作業を行った。今年度も12班に分かれ、美祢高生がリーダーシップをとりながら横一列になって刈り進み、1時間半かけて幅6メートル、長さ240メートルの防火帯を作ることができた。背丈ほどの高さに茂った笹の壁を刈り終わった後、大きく変化した景色に生徒たちは感動するとともに、達成感を味わうことができた。また、「火道切り」の学習の意義をも十分に感じ取ることができた。



(3) 今後の課題と展望(まとめ)

今年度も、高校生がリーダーシップをとって活動する場面を設定した。秋吉台上でグループを作ること、中学生に整列を呼びかけること、開会・閉会行事の司会進行を担当したことなど、高校生の「先輩らしさ」が感じられた。

中学校でこの「火道切り」を体験し、美祢高生徒として再びこの行事に参加する生徒も多い。今後も中高一貫教育の合同行事として充実させていくためには、美祢高生徒が行事の核となって活動し、リーダーシップをとる場面をさらに増やしていくことが望ましいと思われる。また、2月に行われる「山焼き」に実際に参加することができれば、この行事の意義がよりいっそう深まるのではないかと考えられる。



IV 多様な集団とのふれあい学習

1 概要(郡中文化祭、キャリア教育等について)

「多様な集団とのふれあい学習」で「取り組む内容」と「平成19年度の基本的な考え方」は、次のようになっている。

— 取り組む内容 —

学校行事や生徒会活動、社会活動を通してふれあい体験学習に取り組む。
「中・高」の枠をこえた異なる世代や集団とのふれあい学習を行う。

— 平成19年度の基本的な考え方 —

中高間の交流の充実

- ・学校行事や生徒会活動、部活動などでの交流
異なる世代との交流の充実
- ・幼稚園・保育園、小学生、様々な人々との交流
地域社会との交流の充実
- ・社会活動を通じたふれあい体験学習による地域との交流、貢献

図表12は、連携4校での実践を4月～3月という時間の流れに沿って、「中学校独自の实践」「中高合同の实践」「高等学校独自の实践」の3つに分けて整理し直したものである。「中高合同」の欄に、行事名のみ記入しているものは、美祢高・秋芳北中・秋芳南中・美東中の連携4校での実践である。また、連携4校全部が参加していないものについては、行事名の後の()内に参加した学校名を記入している。図表12に~~~~線で示した実践について後述する。

	中学校(北・南・東)	中高合同	高等学校
4月			
5月	<u>2年職場体験(東)</u>	鶴木絵里ゾラコンサート (高・北・南)	ふれあいコンサート
6月	幼児ふれあい体験(北・南)		
7月		美祢高校オプンスクール	ふれあい体験
8月		<u>卒業生と語る会</u>	24時間テレビチャリティー参加
9月	<u>2年職場体験(北)</u>	美祢高校文化祭	
10月	環境美化活動(南) <u>2年職場体験(南)</u>		
11月	高齢者体験(南) 幼児ふれあい体験(北・南) 1年職場訪問(南)	<u>美祢郡中学校文化祭</u> 高校の先生にお話を聞く会 (高・東)	
12月	テイクアビス体験(南)	<u>生徒会リーダー研修会</u>	ふれあい体験
1月	<u>働く人に学ぶ会(東)</u>	秋芳町出初め式(高・南) 秋芳町駅伝大会	
2月	ふるさとの先達に学ぶ(北)		
3月		ガラスファスタinあきよし	嘉万小マーチングバンドとの交流会
備考	(高)...美祢高、(北)...秋芳北中、(南)...秋芳南中、(東)...美東中		

図表12

2 生徒間交流（郡中文化祭等）

（1）郡中文化祭

ア 概要

（ア）ねらい

- ・美祢郡内の中学校及び高等学校が学習成果を発表し、文化活動の向上を図る。
- ・美祢郡内の中学校及び高等学校の生徒が文化活動を通して友情と連帯感を深める。

（イ）実施日及び会場 平成19年11月7日（水） 秋吉台国際芸術村

（ウ）日程と内容

プログラム		
1. 開会式	9:00 ~	9:20
2. 意見発表	9:25 ~	9:45
3. 英語発表	9:50 ~	10:10
休憩	10:10 ~	10:25
4. 芸術鑑賞（狂言）	10:25 ~	11:25
5. 作品鑑賞（昼食・休憩を含む）	11:25 ~	12:55
6. 音楽発表（合唱の部）	13:00 ~	13:45
休憩	13:45 ~	14:00
7. 音楽発表（合奏の部）	14:00 ~	15:00
8. 全員合唱	15:00 ~	15:10
9. 閉会式	15:10 ~	15:20

1. 開会式

生徒代表あいさつ 秋芳南中学校 3年 折田菜々恵
 美祢郡中学校教育研究会会長あいさつ 秋芳南中学校長 篠田 修二
 教育委員会あいさつ 美東町教育委員会教育長 堀井 保法
 来賓祝辞 美東町長 倉増 卓雄

2. 意見発表

学校名	学年	氏名	題名
秋芳南中学校	3	沖田みつき	病気に克つ
秋芳北中学校	2	松原 光	「コミュニケーション」の大切さ
美東中学校	1	山口 廉平	いじめという壁
美祢高等学校	2	宅野 義人	楽しい学校生活とは？

3. 英語発表

学校名	学年	氏名	題名
秋芳北中学校	3	田村 奈々	Miss Evans on the Titanic
美東中学校	3	三善 茉央	Lilo & Stitch
秋芳南中学校	3	荒川恵利華	Equality
美祢高等学校	3	安富絵里加	Finding My Future through Experiences

4. 芸術鑑賞（狂言） 「不毒（ぶす）」 山口縣流狂言保存会
 主人から不毒（ぶす）という猛毒の入った桶の番を頼まれた次郎冠者と次郎冠者。
 二人は主人の外出中、桶を開け、不毒を口にしてしまいます。

5. 作品鑑賞

ギャラリーに各校の美術科作品、書写作品、科学作品、技術家庭科作品等を展示しています。ごゆっくりご覧下さい。

6. 音楽発表（合唱の部）

学校名	曲名	演奏者	指揮者	伴奏者
秋芳北中学校	ともだちがいる	全校生徒	藤津直子	田中美佑希
	消えた八月	全校生徒	藤津直子	三原 順子
美東中学校	心の壁	2年1組	沼 勇介	藤井里花
	自分らしく	全校生徒	小林 遼	岡田拓也
秋芳南中学校	愛のコーラス	全校生徒	藤津直子	秋山真理
	時の旅人	全校生徒	藤津直子	山下詩織

7. 音楽発表（合奏の部）

学校名	曲名	演奏者	指揮者
秋芳南中学校	仲間とカンタービレ Love so sweet	吹奏楽部	松永衣美子
美東中学校	木星～中間部分 イケナイ太陽	吹奏楽部	赤間 錦世
秋芳北中学校	ボクノート 日本の情景	吹奏楽部	藤津直子
美祢高等学校	Winding Road メリッサ	吹奏楽部	西村正浩

8. 全員合唱 「秋吉台賛歌」

指揮者 藤津直子 伴奏者 吹奏楽部（4校合同演奏）

9. 閉会式

生徒代表あいさつ 秋芳南中学校 3年 武藤 優大
 美祢郡中学校校長会長 秋芳北中学校長 村上 利廣

イ 成果と課題

美祢郡内3中学校の全生徒と、美祢高校の関係生徒が一堂に会し、日頃の学習の成果を発表することにより、お互いに刺激を受けながら感動を共有することができた。また、各学校のよさを発見することで連帯感をより深めることができた。秋吉台国際芸術村のたいへん恵まれた環境での音楽演奏はすばらしいものであった。美祢市との合併のため、今年度で最後になった郡中文化祭は、有終の美をかざることができた。

今後は、郡中文化祭で培ってきた成果や交流活動を新しい美祢市中学校文化祭の中に活かしていくことが大切である。

(2) 生徒間交流

12月27日(月)に、秋芳北中学校を会場にして、美祢郡中学校・高等学校生徒会リーダー研修会を開催した。12月にはすでに生徒会の新執行部が選出されており、3学期から新執行部を中心にした活動が始まる。それに先立ち、美祢郡内中学校・高等学校の生徒会活動の活性化と交流を図り、学校のリーダーとしての資質の向上をめざすという目的で、この研修会が開催されている。

参加者は、美祢郡3中学校から17名、美祢高等学校から4名、計21名であった。今回は、秋芳町教育委員会社会教育主事の今坂雅志先生を講師としてお招きし、研修を行った。まず始めに、各校の生徒会活動の取組みについて紹介をし、年間の生徒会行事や専門委員会活動の内容やその様子について説明を行った。口頭で説明するだけでなく、プリント資料や、パソコン活用による説明など様々な工夫をこらしていた。特に中学校は、生徒会役員改選後間がなく、少ない準備期間の中で創意・工夫をこらして発表した学校もあり、各校の情報交換が十分にでき、有意義であった。

その後、体育館で今回のリーダー研修会でのメインでもある「トライ アンド エラー」を行った。講師の今坂雅志先生の御指導のもと、はじめに、今の自分に足りないものを配られた紙に書き、それを掲示していろいろなゲームに取り組んだ。皆、それぞれに楽しくゲームに参加していたが、生徒は活動の中で、「協力することやリーダーシップを取ることの大切さ」「話し合いの必要性」「個人の考えを出し、また、人の意見も受け入れることの大切さ」「何度でもあきらめないで挑戦することの大切さ」「同じやり方が通用しなければ別の方法を考えることの必要性」などを学んだようだった。ゲーム後、再び教室に戻り、学校別に話し合い、執行部員として自分たちがどのような心構えをもって活動していくかについてまとめて発表し合った。

年1回の研修ではあるが、今後も新役員が決定する12月中旬以降に、こうした研修会を開催していきたいと考えている。



3 キャリア教育の推進

(1) 3中学校のキャリア教育の取組

図表13は、3中学校の中学1年～3年にかけてのキャリア教育への取組をまとめた表である。中学1年と3年で取り組む内容に多少の違いはあるが、中学2年で「職場体験学習」に取り組むことは3校とも共通している。

秋芳北中学校は、「ふるさとを知る」「ふるさとで学ぶ」「ふるさとへの発信」という3年間を通した一連の流れにしている。

他の2校は、「職場体験学習」へ向けて2年間取り組んだ後、個人の進路へ向けて取り組む学習を行っている。各中学校の実情を考え、それぞれが特色を出しながら取り組んできた様子がわかる。

		秋芳北中学校	秋芳南中学校	美東中学校
中 学 1 年	名称	ふるさとを知る	働く人から学ぶ	働く人に学ぶ会
	時期	1学期	2学期～3学期	1月
	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 秋吉台、秋芳洞に関することから個人の研究課題を設定する。 現地での調査活動や資料の収集を行う。 まとめの冊子を作成し、発表会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 秋芳町近辺の職場を訪問し、働く人から話を聞く。 調べたことをレポートにまとめて発表する。 電話や事前訪問、礼状などのマナーを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 職業調べや身近な人へのインタビューを行うことにより働くことの意義について考える 美東町内で活躍されている方からお話を聞き、自分の目標や指針を見つける。
中 学 2 年	名称	ふるさとで学ぶ (職場体験学習)	職場体験学習	職場体験学習
	時期	9月、3日間	2学期、3日間	5月、2日間
	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 「働くこと」「職業について」学級活動で学習する。 体験先事業所を決定し、事業所と事前打合せを行う。 職場体験を行い礼状、体験レポートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 秋芳町内およびその周辺の事業所において、職場体験を行う。 調べたことや体験した内容、感想をレポートにまとめて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 働く目的、意義、職業の分類などについて学習する。 体験先事業所を決定し、事業所と事前打合せを行う。 職場体験を行い、職場体験新聞を作成する。
中 学 3 年	名称	ふるさとへの発信	進路を考える	高校生から話を聞く会
	時期	2学期	2学期	8月
	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習をもとに、個人課題を設定する。 現地での聞き取り、アンケート調査などを行う。 調べた内容を冊子にまとめ、発表会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みに高校生と語る会を実施するとともに、各高校の体験入学に参加し、高校の特徴などをまとめる。 体験したことや調べたことをまとめ、全体発表会で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生から、具体的な高校生活についての話を聞く。 話の内容に関する質問をし、感想をまとめる。

図表13

平成17年度からの3年間をかけて、「キャリア教育」という視点から3中学校で取り組んでいる内容を整理し直した。上の図表13をじっくり眺めてみると、「中学3年でのキャリア

育をどのようにとらえていくか」を3中学校で検討していくことが今後の課題であろう。

(2) 美祢高校のキャリア教育の取組

連携3中学校のキャリア教育は各校とも地域性が生かされ、内容的にも充実したものとなっている。一貫教育6年間の後半である高等学校においては、更に個々人の能力・適性、興味関心、社会状況その他を総合的に判断し、より具体的な学習を進めるなかで、進路実現のために着実な準備を主体的に、計画的に進める能力・意欲を育むことを主眼にキャリア教育を進めている。また、一貫教育の視点から、特色ある進路指導方法の工夫と改善として、高校側から中学校側へ進路に関する講話を実施するなど、連携3中学校との『キャリア教育』連携もすすめ、中学校と高等学校の円滑な接続も継続している。

体験活動	実施学年	実施日数・時期(上段) / 内容(下段)
講演・講話・ディスカッション等(産業人、大学教授、卒業生、地域人材等)	1 学年	フレッシューズセミナー 2泊3日 4月 キャリアセミナー ・ ・ ・ 、スタディーサポート、リーディングマラソン、集団づくり活動、登山等
	全 学 年	カルスト講座(期-その1) 2時限 6月 模擬講義(山口大、県立大、東京理科大、宇部フロンティア大短期大学部、梅光学院大学、山口芸術短期大学)
	1.2 学年	カルスト講座(期-その1) 2時限 2月 専門学校・企業人事部による模擬授業
		カルスト講座(期-その2) 2時限 3月 進路講話(学年単位) 分科会
上級学校見学・体験入学	2 学 年	校外研修 5月 1日 山口地方裁判所・NHK見学、山口学芸大学説明
	3 学 年	学校見学 1日 4月 インフォメーションカレッジ 、山口県立大学
応募前職場見学	3 学 年	就職希望企業 半日 8月~ 就職希望企業の説明・見学
地域との連携活動(地域の活性化企画への参加、福祉・環境活動への参加等)		地域行事への協力参加 保育園での学習活動発表・赤ちゃんサークルへの参加 地域施設の訪問活動

第1学年対象の「フレッシューズセミナー」を昨年度に引き続き実施した。社会人が研修をする山口セミナーパークを会場とすることで、いわゆる集団宿泊とは異なる位置づけを明確にしている。高校時代にキャリア教育の4領域の能力をバランスよく伸長するためにも、早期に進路を考える機会をつくることを目的としている。今年度も具体的な目標として、 規律ある集団生活を行う中で、友人との相互理解を深め、協調性を養い、集団行動における安全も考慮した、社会的態度を育むこと さまざまな活動を通して学習内容の領域を広げ、理解を深め、将来の自己実現に向けた取組とした。

また、選択教科・科目、部活動等の活動において、地域の様々な行事、施設へ積極的に参加するなかで体験・学習する機会の確保も進められている。

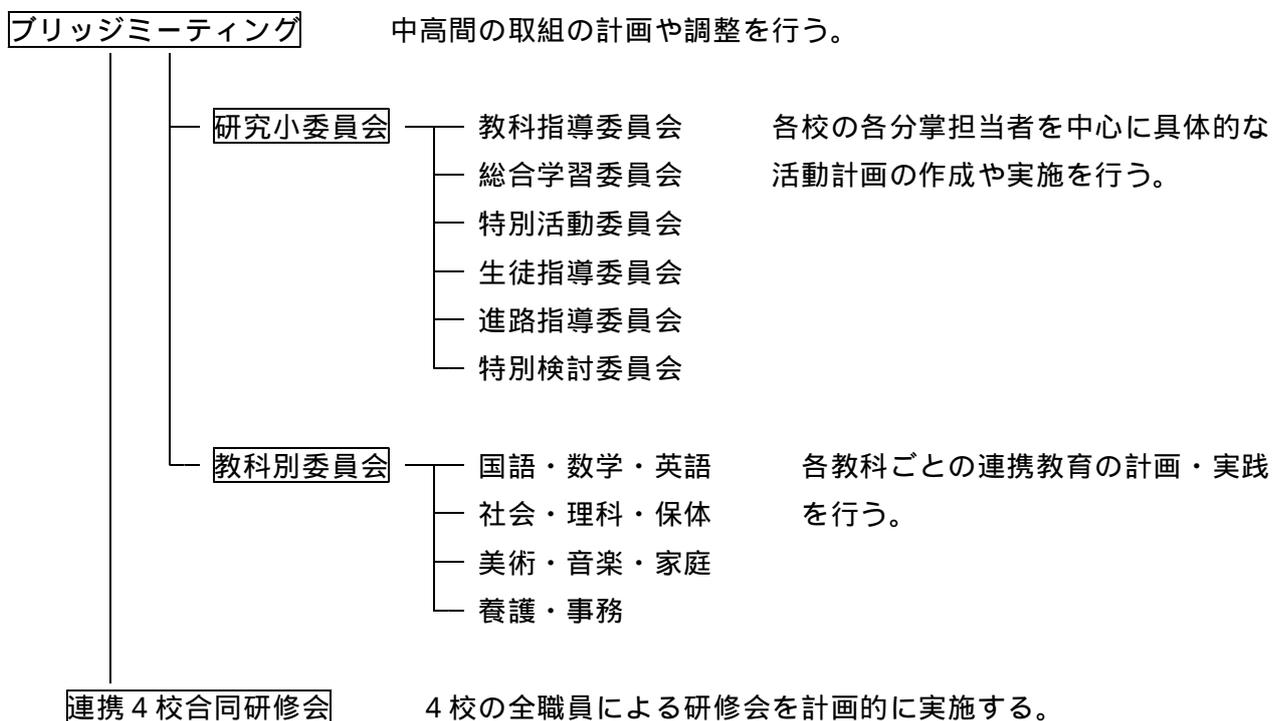
V 中高一貫教育推進のための基盤作り

1 概要

中高一貫教育を円滑に推進するためには、毎年継続して一貫教育のための取組計画や調整を行うことが不可欠である。学習指導の連携、学校行事の連携などについて、前年度までの取組を引き継ぐとともに、改善しながら進めていく必要がある。

また、地域としては、複数年の中高一貫教育の経験を有しているが、中学校、高等学校それぞれ毎年の人事異動により、新しい教職員が赴任する。したがって、中高一貫教育の意義や取組の内容、経過等について常に十分な理解を図ることが安定した一貫教育の推進につながる。

本地域では、連携4校が合同で次のような組織を編成し、中高一貫教育の推進に努めている。



2 ブリッジミーティング

(1) 活動状況

秋芳・美東地域の連携型中高一貫教育を円滑に推進するため、具体的な課題や対応策を検討し、取組の方向を各学校間で共通理解することを目的として平成17年度に設置した。

基本的な構成メンバーは、連携4校の校長、教頭の計8名であるが、必要に応じて各校の校長のみが集まったり、中高一貫教育担当者や教務主任等も参加するなど、柔軟な姿勢で会の運営を行っている。

平成19年度については、8回の会合を開催しており、その概要は次のとおりである。

平成19年度 ブリッジミーティングの主な内容

	日 時 等	主 な 協 議 内 容
第1回	日 時：平成19年4月6日 参加者：各校校長、教頭	1 今年度の取り組みについて 平成19年度の地域年間計画 第1回連携4校合同研修会 授業交流 交流事業 美祢高オープンスクール
第2回	日 時：平成19年5月15日 参加者：各校校長、教頭	1 今年度の計画について 美祢高校文化祭 美祢高校オープンスクール 2 第1回連携4校合同研修会について
第3回	日 時：平成19年6月28日 参加者：各校校長、教頭	1 第2回連携4校合同研修会について 2 「基礎学力診断テスト」の実施について 3 中高間の交流に係る依頼文書について
第4回	日 時：平成19年10月4日 参加者：各校校長、教頭	1 第2回合同研修会のまとめについて 2 2学期の主な行事について 3 連携入試について
第5回	日 時：平成19年11月19日 参加者：各校校長、教頭	1 中高一貫教育の評価について 2 平成19年度の記録について 3 学習意欲の向上について 4 連携入試について
第6回	日 時：平成19年12月26日 参加者：各校校長	1 中高一貫教育の評価について 2 「平成19年度のまとめ」の作成について 3 平成20年度の取組みについて
第7回	日 時：平成20年2月18日 参加者：各校校長、教頭	1 今年度のまとめについて 2 平成20年度の取組みについて
第8回	日 時：平成20年3月18日 参加者：各校校長、教頭	1 平成20年度の取組みについて

(2) 活動の成果

各校の管理職等が定期的に会合を持つことにより、年間を通して中高一貫教育に関する取組の計画や調整を円滑に進めることができるとともに、年間計画の適切な進行管理ができる。

また、会合の回数を重ねることにより、校種の異なる学校それぞれが抱えている課題などについて本音の意見交換ができる場となっており、課題解決に向けた前向きな検討が行われている。

3 各種委員会

連携している学校が協力して円滑に事業を進めることができるよう、各校合同の委員会を設置している。

(1) 研究小委員会

4校が連携した学校行事の推進や教職員の研修、学校間の情報交換を行うため、各校の各分掌担当者を中心に6つの委員会を設置し、活動計画の作成やその計画に基づく行事の運営を行っている。

平成19年度 各委員会の主な活動

委員会	主な活動・課題
教科指導委員会	基礎学力診断テストを実施した。 基礎学力診断テストに関する具体的な計画・運営は、英語、数学、国語について、中高の各担当者により行った。
総合学習委員会	郡中文化祭における各校の作品展示等の調整を行った。
特別活動委員会	火道切りについて、校種を越えて縦割り班を編成するなど、具体的な計画・実施を行った。
生徒指導委員会	中高の関係者間の情報交換を行った。
進路指導委員会	高校からの進路講話等を例年どおり実施した。

(2) 教科別委員会

連携授業を実施するために各教科ごとに委員会を設置しており、年度はじめに年間計画を検討し、その後、必要に応じて打合せを行っている。

英語、数学、国語の教科会議については、計画的に協議の場を設定しており、中高間の教科指導に対する考え方や指導方法について共通理解を図るとともに、基礎学力診断テストの内容等に関する検討を行った。

4 連携4校合同研修会

連携型の中高一貫教育を安定して推進していくためには、中高一貫教育の意義や取組の内容、経過等について常に職員間の十分な共通理解を図りながら進めていくことが大切である。

本地域では、毎年2回、全職員を対象とした「連携4校合同研修会」を計画的に実施することにより共通理解を図っている。

平成19年度 合同研修会の主な内容

	主な研修内容
<p>第1回</p>	<p>日時：平成19年5月28日(月) 14:30～16:50 会場：美祢高等学校視聴覚教室</p> <p>研修内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 連携型中高一貫教育の現状と今後の取組について(山口県教育委員会) 2 教科会議 国語科 社会科 数学科 理科 保体科 芸術科(音楽・美術) 英語科 家庭科 養護 事務 拡大ブリッジミーティング <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本年度の具体的な取組み内容 国語科、数学科、英語科、社会科、理科、保体科、芸術科、家庭科 授業方法：単独授業など 授業内容：通常授業、特別テーマによる授業 養護 情報交換等 事務 町費の活用方法 本年度の取組みに係る課題・要望等</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 3 教科会議の検討状況報告 4 特別活動委員会 教科指導 総合学習 特別活動 生徒指導 進路指導 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本年度の具体的な取組み内容 本年度の取組みについて検討 本年度の取組みに係る課題・要望等</p> </div>
<p>第2回</p>	<p>日時：平成19年8月24日(金) 13:00～16:40 会場：美東町民センター</p> <p>研修内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 連携型中高一貫教育の取組について ・連携型中高一貫教育を進めている県内2地域の実践報告を行った。 県立安下庄高等学校・県立周防大島高等学校 教諭 進藤孝浩 県立美祢高等学校 教頭 中村彰利 2 教科会議 国語科 社会科 数学科 理科 保体科 芸術科(音楽・美術) 英語科 家庭科 養護 事務 3 特別活動委員会 教科指導 総合学習 特別活動 生徒指導 進路指導

Ⅵ 今後の課題と展望

秋芳・美東地域連携型中高一貫教育は、平成19年度で5年目を迎えた。中高一貫教育の在り方の研究から始まり、様々な実践を経て、更なる充実・発展を目指すためのC・Aというステップにある。平成20年度には各連携中学校入学時から中高一貫教育を受けた生徒が高校3年生になり、社会に巣立つ。21年度からの取組の検討を進めるために、平成19年度に6年間の一貫教育の状況を多角的に分析し、成果・課題等を確認する準備を始めた。

一方、平成20年3月の新美祢市発足にあたり、連携3中学校は美祢郡から美祢市の中学校となるため、中高間のみならず、様々な面で関係諸機関との調整も必要になると考えられる。一貫教育の基本コンセプトである3つの柱について、今年度の取組を確認するとともに、今後の展望や課題を考察し、さらに連携型中高一貫教育を進める一助としたい。

1 確かな学力の定着を目指す学習

(1) 授業交流

国語、数学、英語の3教科については、月1回程度中高の教員による教科会議が実施され、3中学校での美祢高教員による交流授業が毎学期実施されてきた。授業は、昨年度に引き続き単独授業形式をとり、高校教員の専門性を生かして、「学ぶ喜び」「知る楽しさ」など、中学生の知的好奇心に働きかけるという視点で実施され、高校教員の複数参加、中学校教員とのTTも行われた。中学生一人ひとりの学習状況に応じた指導が可能で、学習への取組は活発で成果も上がっている。また、国語・英語については、中教研等を活用し、中学校教員による美祢高での授業も実施された。連携中学校から美祢高校へ進学した生徒の実態や変化の把握などの他、高校では日頃は難しい他教科の授業見学も可能となり、有意義な研修の機会になった。

(2) 教員の交流

昨年度まで4校による教科会議は、週時程に位置づけて開催できていたが、今年度は主に中学校の教員配置数の関係で、4校の行事予定、部活動指導その他の調整を図りながら放課後に実施せざるを得ない状況となり、大きな課題になった。その中で、美祢郡中教研に高校の教員が参加し、中学校・高校の教員の相互理解や教科指導に於ける意見の交換なども積極的に行われてきており、教員間の交流という意味で大変好評であった。平成20年度には市教研となり、構成学校も増えるため、今年度と同様な会議の持ち方は不可能になるため、今後検討が必要である。

(3) 基礎学力診断テスト

基礎学力診断テストは、国語、数学、英語の学習の理解度・定着度を確認し、中高でそれぞれの教科指導に生かすという観点で一貫教育開始時から実施されてきた。問題作成のための中高教員の教科会議は、多忙な校務の中では負担感はあるが、これまでの蓄積もあり、今後は学力の定点観察、経年変化を確認するという意味に於いてもそれらを活用する方向での検討が必要と考えられる。

一方、基礎学力診断テストの結果や活用の成果は、教科の指導に活用する目的で始められた関係で、教科内での把握にとどまっており、全体的な状況把握という視点では活用し切れ

ていない面がある。教科間、中学校間、中高間において、指導の取組状況、課題点の明確化、学習指導法の検討などを進めるための情報交換と活用が必要と考えられる。

(4) 学習意欲向上のための検証

中高一貫教育の柱の一つとして、確かな学力の定着に取り組んできたが、連携型入試においては学力検査がないために中学校における学習意欲や学力の低下があるのではないかとという意見がある。連携型入試においては、小論文で総合的な学力を測るが、日頃の学習成果が直接的に学力として問われるものではないだけに、今後中高の学習指導や定点観察などによるデータの収集・分析を経て、一貫教育における入学者選抜の在り方についても検討をする必要があると考えられる。

2 「ふるさと・秋吉台」をテーマとする学習

総合的な学習での「ふるさと・秋吉台」をテーマとする学習は、連携3中学校においてはそれぞれ地域性を生かした独自の取組が進められており、「地域を学習する」、「地域で学習・体験する」、あるいはキャリア教育という視点で意義深い学習内容となっている。高等学校においては、学校設定科目「秋吉台学」において、秋吉台科学博物館、エコミュージアム等の協力も得ながら、科学的、歴史的、文化的にも内容豊かな学習をしており、今年度は学習対象地域を美祢郡全域にまで広げることによって、発達段階に応じた発展的学習の可能性も探られた。

また、総合的な学習は、職場体験学習などキャリア教育としても重要な役割を果たしている。各校独自の取組については、地域の協力も得ながら進められているが、6年間の指導計画の中で、中学校が担う一定の基準や高校の役割を明確にする必要性がある。

一方、ふるさと・秋吉台をテーマとする学習については、今後新学習指導要領の改訂による時間数の削減が行われる中で、今年度と同様の学習を実施することが困難になるため、今後テーマの変更をし、キャリア教育など特化したテーマとするなどの検討が必要になるように思われる。

3 多様な集団とのふれあい学習

地域に根ざす学校として地域の期待には大きいものがある。連携4校とも様々な地域行事への参加、幼・小・中・高、あるいは各種施設での交流は生徒にとって視野を広げ、学校生活の在り方を考え、進路を選択する等の点で、有益な学習の場となるとともに、地域に貢献する中で、自己肯定感を育てる良い機会ともなっている。「火道切り」、オープンスクール、生徒会リーダー研修会、文化祭、プラスフェスタ、あるいは英語セミナー等の中高のふれあいは、一貫教育の柱の一つでもある。それぞれが高校進学に向けての中学生の意識の高揚のために実施されてきた。

その他、高等学校では、地域の保育所の園児を招待しての「ふれあいコンサート」、「小学校との吹奏楽交流会」などの地域の保育園、小学校との交流が部活動、授業成果発表の場として積極的に進められた。また、今年度は乳幼児とのふれあいの機会も関係機関との連携で実現するなど、極めて広範囲で意欲的に進められている。

しかし、中高一貫という視点では、今までの行事の継続という安易な傾向も見受けられる。本来目指すものを再確認し、更に工夫された取組とする必要がある。特に、中学生にとってはリーダー的存在であるはずの高校生の意識が不十分であることに起因するマイナス面の影響が課題になっており、参加体制の検討、あるいはリーダーシップがとれる事前指導が必要であることが明らかとなった。

4 中高一貫教育推進のための基礎づくり

平成20年度末には6年間の連携型中高一貫教育を受けた生徒が高校を巣立つことになる。中高一貫教育を更に推進していくためにも、その総括と成果の検証が求められる。これまで様々な取組の中でPDCAが実施されてきてはいるが、教職員の異動等もあって、一貫教育の所期の目的も教職員一人ひとり、あるいは中高間でも微妙なぶれが出てきているのではないかという指摘がある。今年度はブリッジミーティングを予定回数以上に開催し、諸課題の検討をするとともに、連携4校全教職員による課題点の明確化と改善策の模索を行っている。その中で中高生徒間のふれあいの機会の見直しは当然であるが、教科間だけでなく、生徒指導、進路指導、特別活動等の教職員の連携強化が急務であるという認識が高まっている。

3月の新美祢市の誕生によって、これまで美祢郡内の学校として可能であった連携教育活動も新しい局面を迎える。両町から得ていた支援も将来的には全く不明である。4校が置かれた状況の中で、地域の心身共に健全な子ども達の成長を支援するとともに、地域の学校としての期待に応えるために、これまでの取組を継続するのではなく、中高一貫教育の在り方を弾力的に求めていかなければならない。

おわりに

本地域での中高一貫教育の取組は、平成15年度のスタート以来、すでに5か年を経ている。この間、連携中学校・高等学校では、文部科学省の改善充実事業の委嘱を受けるなどして、課題を一つ一つ解決しながら中高一貫教育を着実に進めてきている。

現在、本地域の中高一貫教育校が抱えている課題には、単年度の工夫・改善で解決できるものだけでなく、継続した検討や取組を進める必要があるもの、さらには、制度上各校の設置者の検討が必要であるものなど様々なものがあることから、今後、それらの課題解決に向けて各校をはじめ関係教育委員会の関係者が協力して検討を進める必要があると考えている。

最後に、本記録集をまとめるに当たり、各校の中高一貫担当者をはじめ関係の皆様にご協力いただいたことを心から感謝いたします。